



JRI news release

## 期待される公共事業のアウトソーシング市場 ～生活環境インフラ分野を中心に～

2001年9月20日

株式会社 日本総合研究所  
創発戦略センター

本レポートの内容に関するお問い合わせは、下記にお願い致します。

創発戦略センター 副主任研究員 石田 直美

TEL: 03-3288-4985 E-Mail: [ishida@ird.jri.co.jp](mailto:ishida@ird.jri.co.jp)

## 【要旨】

小泉内閣による構造改革の取り組みの中でも、公共事業の改革は優先度の高い取り組みの一つとされています。本レポートは、公共事業の改革として、PFI的な考え方を取り入れた新しい民間委託の方式（アウトソーシング）について、その内容、市場規模、財政負担削減効果等について解説します。

### 1. 民間能力活用の流れはとまらない

PFIは、施設の建設、運営、維持管理、資金調達等を、一体的に民間企業に委ねる事業方式で、イギリスで導入されました。

1999年、日本でもPFI推進法が成立しました。2001年9月現在、260のPFI事業が検討、もしくは実施されています。

ごみ処理や上下水道等の生活環境インフラ事業は、運営の占める比率が高く、PFIによるコスト削減が期待できる有望な事業分野です。

北海道室蘭市を中心とする西胆振広域廃棄物処理事業のPFIにおいては、ライフサイクルコストが30%削減され、大きな成果を上げています。

一方、「骨太の方針」に示されたとおり、施設の建設だけでなく、既存施設の維持管理や運営についても、民間能力を活用することが求められています。

### 2. アウトソーシングとは

現在でも、施設の維持管理業務の民間委託は、広く行われています。しかし、民間による創意工夫が行われず、非効率となっています。

アウトソーシングとは、以下のような民間委託を行うことにより、民間の創意工夫を引き出し、コストを削減し、効率化する手法です。

- ・ 性能発注の導入
- ・ パフォーマンスに応じた委託費
- ・ 性能遵守のための仕組み
- ・ 民間の業務範囲の拡大
- ・ 複数年度契約

茨城県守谷町では、アウトソーシングの考え方を一部導入し、処理場の維持管理費を9%削減しています。

国レベルでも、上下水道分野において、アウトソーシングの導入を促進するための取り組みが行われています。

### 3 . アウトソーシングの導入意義

データの整備されている下水道事業を例に、アウトソーシングの市場規模を試算すると、業務範囲の拡大により、民間から見た市場規模は2.5倍に拡大すると期待されます。内需型新規市場の創出につながります。

一方、公共職員の削減や、アウトソーシング対象業務費用の削減により、維持管理費全体で20%程度の負担軽減効果が期待されます。

さらに、アウトソーシングにより民間企業における運営ノウハウの蓄積が進むと考えられます。海外の有力企業（仏ビベンディグループ等）も、アウトソーシングにより蓄積した運営ノウハウをPFIに活かしており、PFI導入の基盤にもなります。

### 4 . アウトソーシングの導入にあたっての課題

制度的な課題はないため、現行制度のもとでの実施が可能です。

しかし、自治体が円滑に導入手続きを進められるよう、技術面での支援の仕組みや、標準的な契約の作成等、自治体の負担を下げるような取り組みが必要です。

また、自治体は、住民へのPRや政策立案等、自治体固有の業務に注力し、現場の業務は民間に任せる、という意識への転換が求められます。

なお、日本には海外に比べて小規模な施設が多いため、将来的には、複数施設の一体的なアウトソーシングが必要不可欠です。そのための円滑な共同発注の手続き等を整備することも、求められます。

以上